

## ■金利リスクに関する事項

### 金利リスクの算定方法の概要

金利リスクとは、債券市場、スワップ市場等の金利に関連する市場が変動することにより、貸出金、有価証券、貯金等の金利感応資産・負債の価値が低下するリスクをいいます。

当組合では、市場金利が上下2%変動した場合の金利リスク量を算出しています。

なお、当座性貯金については、明確な金利改定間隔がなく、貯金者の要求によって随時払い出される貯金としてコア貯金と定義し、残高の50%相当額を満期5年までの期間に均等配賦(平均残存2.5年)して金利リスクを算定しています。

金利リスクは、運用勘定の金利リスク量と調達勘定の金利リスク量を相殺して算定します。

金利リスク(▲236百万円)=運用勘定の金利リスク量(▲1,033百万円)+調達勘定の金利リスク量(797百万円)

## ■金利ショックに対する損益・経済価値の増減額

単位：百万円

	18年度	19年度
金利ショックに対する 損益・経済価値の増減額	▲334	▲236

## ■経営諸指標

	18年度末	19年度末	
(信用事業関係)	貯貸率(期末、期中)	23.50%、22.49%	22.64%、21.48%
	貯預率(期末、期中)	60.68%、53.89%	65.12%、58.90%
	貯証率(期末、期中)	13.55%、12.43%	13.62%、13.19%
	一従業員当り貯金残高	883百万円	946百万円
	一店舗当り貯金残高	1,251百万円	1,156百万円
	一従業員当り貸出金残高	199百万円	214百万円
	一店舗当り貸出金残高	281百万円	262百万円
(総合)	総資産経常利益率	0.30%	0.27%
	資本経常利益率	4.98%	4.33%
	総資産当期純利益率	0.20%	0.21%
	資本当期純利益率	3.26%	3.35%

(注1) 総資産経常(当期)利益率=経常(当期)利益/総資産平均残高(偶発債務見返除く)×100